

L o v e l y W i n d

# あいのかぜ

VOL. 11

2001・春号  
富山市女性情報交流誌



特集  
私もあなたもエンパワーメント！

# 私もあなたも エンパワーメント!

「エンパワーメント」とは「力をつけること」

1人ひとりが自分自身の生活と人生を決定する自己決定能力を養い、周りの人たちと一緒にあらゆる分野の意思決定の場面に参画するために力をつけることをいいます。

難しく聞こえるかもしれませんが、「地域でこんな活動始めました。」「妻任せだった家事にトライしてみました。」ということも、エンパワーメントの第1歩なのではないでしょうか。

「あいのかぜ」では、地域社会の中でエンパワーメントしている方々に、お話を伺いました。



## 川淵映子さん・ボランティアグループ「アジア子供の夢」代表

昭和24年富山市生まれ。

短大卒業後幼稚園や養護施設に勤務したのち、昭和49年ベトナムに渡る。翌年、サイゴン(現ホーチミン)陥落に伴い帰国。

平成8年、再びベトナムを訪れたのをきっかけに「アジア子供の夢」を設立。リサイクル・バザーで得た収益によるベトナムの学校建設支援やベトナムへのスタディツアーなどの活動を行う。

夫の両親、夫、娘との5人暮らし。3女の母。富山市在住。

## 「やってみようよ」から始まった

昭和49年、ベトナム戦争当時。私は25歳で難民救済のボランティアを目的に、YMCAのメンバーとしてベトナムに行きました。現地の日本人幼稚園で働いていましたが、翌年4月、サイゴン陥落による帰国命令で富山に帰り、その後すぐ結婚しました。

それから20年ほど経って、子育ても落ち着き「その後、ベトナムはどうなったのか」と思っていたちょうどそのころ、『ベトナムに行くのは初めて』という友人たちと一緒にパッケージツアーに参加して、再びベトナムへ渡りました。平成8年、47歳のときのことです。

その時、私の目に飛び込んできたのは、20数年前と何から何までまったく変わっていないベトナムの風景でした。食べたいだけ食べては捨て、着たいだけ着ては捨てるを繰り返す日本の社会と比較をして、大変なショックを受けたのです。

「自分たちに何かできないだろうか」と、同行した友人たちと始めたのが「アジア子供の夢」の活動です。不安はありましたが「やるだけやってみようよ」と言いながらのスタートでした。

## 1枚の古着から...

まずは自宅で古着を集めて売って、資金作りから始めました。ところが今度は、そのお金をどのように使えばよいのか。ユニセフなどにも問い合わせましたが、これといった方法が見つかりませんでした。そんな時、黒部の「ベトナムの子供を支援する会」の丸田さんと出会い、現地視察に同行させていただくことになったのです。

その時、ハノイから車で3時間半ほどかけて行ったのが、タイグエン省フーチエン小学校でした。現地は電気もガスも水道もないところで、行った途端に『待ってました』と言わんばかりに「ご支援よろしくお願いします」とあいさつされてしまって... (笑)

その後、年2回のペースでこの学校を訪れるうちに、少しずつ現地の状況が分かって来ました。

校舎が非常にもろく4～5年ほどで倒壊してしまうので、行くとたびに校舎が減っていくし、へき地なのに宿泊施設がないので、先生の確保もままならないのです。こうして私たちは、新校舎建設支援を開始しました。おかげさまで、新校舎はこの春にはいよいよ落成式を迎えます。1人でも多くの子供に、夢を忘れずに頑張る学んで欲しい、それが私たちの願いです。

昨年6月には、私たちの活動の背景をより理解していただくため、タイグエン省の教育長、小・中学校の校長先生の方々に日本に招待しました。ただ資金提供するだけという一方通行の援助ではなく、真の国際交流を目指してこれからも活動を続けていきます。

### ベトナムに学ぶ日本の若者

私たちは年2回、日本の春休みと夏休みを利用して、ベトナムへのスタディツアーを実施しています。

参加した学生さんや不登校の子供たちは、自分たちがいかに恵まれた環境の中で生活しているかということ、『水もなく、食べ物も少なく、トイレにはトイレトペーパーがなく、店は薬局一軒のみ』という村での生活を通して、耳で聞くよりも肌で強く感じ取っています。それが「自分にももっと何かできるのではないか」と考えるきっかけとなり、一歩前進する力にもなっているようです。

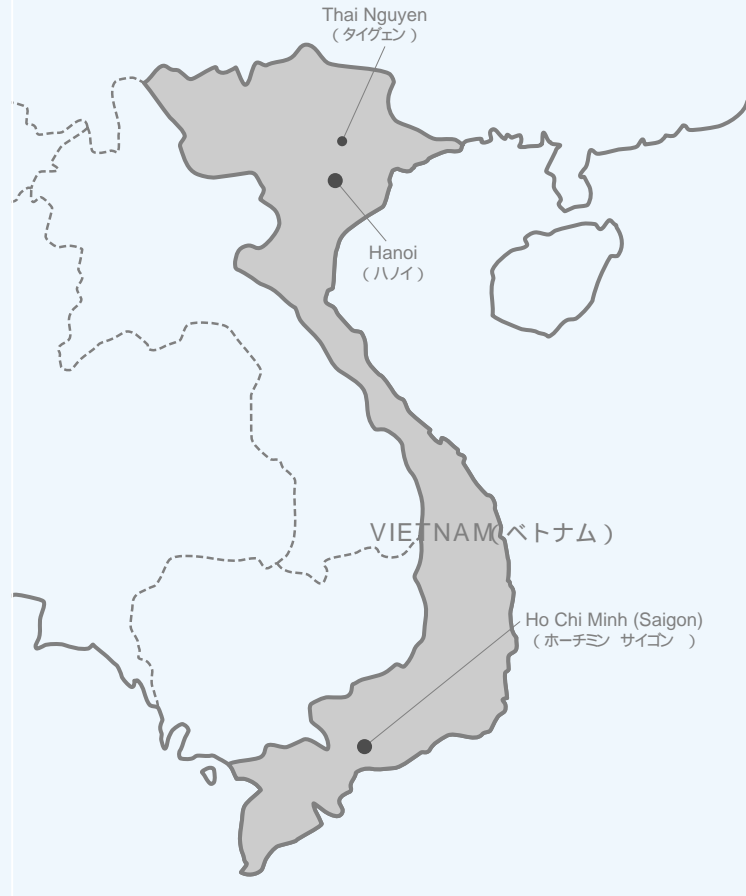
### 「アジア子供の夢」の夢

このたび私たちが計画したベトナムでの職業訓練センターの建設が、JICA（国際協力事業団）から正式に認可を受けました。これは、ベトナム戦争で散布された枯葉剤の影響で光を失った子供たちの職業訓練施設で、彼らの経済的自立を後押しするためのものです。

私自身、ベトナムであれば言葉も地理も少しは分かるという理由で、ベトナムから支援活動をスタートさせましたが、これからは活動の場をラオスやカンボジアにも広げ、ゆくゆくはさまざまな状況下におかれているアジア全体の子供たちを支援したいと思っています。

私はこの「アジア子供の夢」が、とりわけ若い人たちの経験と成長の場になってほしいとも思っています。リーダーシップを取れる人、リーダーを助けることができる人を育ててゆくのは、私たちの大事な役目だと考えています。

「ボランティアは最大の趣味。おもしろいし、楽しいし、人が大好きだから続けられる。」とおっしゃる川淵さん



### 要は「やる気」

私自身、娘たちが幼かった頃は、子育てや仕事に夢中で「何かやろう」なんてまったく考えていませんでした。でも、主婦であり、母であり、仕事を持つ女性であり、妻でもある私がボランティア活動を通じて、物事はすべて「やる気」の問題なのだ実感しました。

例えばリサイクル・バザーひとつとっても、やれることは山ほどあります。古着などを買うことで貢献できるボランティアがあれば、古着を提供するボランティアも、販売を手伝うボランティアもある。自分の心構えひとつでいろんなことができるということを、私はこの「アジア子供の夢」を通して学びました。『それぞれの立場でできることをやる』それが本当のボランティアだと思っています。

仕事があるから、子供がいるから、主婦だから「できない」と片付けるのは簡単だけれど、時間的に制約があるとしても、要は「やる気」があるかどうかの問題だと思うのです。

# Let's エンパワーメント!

## 私のエンパワーメント

～男女共同参画社会の実現を目指して～



中川 信之さん

60代 富山市在住  
定年退職後は、夫婦2人暮らし  
富山県男女共同参画推進員富山市連絡会  
南部ブロック長を務める

男女共同参画社会実現に向けての運動のあり方としては、あくまで女性が主役、男性は協力する立場かと思っています。

日ごろから、『男女共同参画』という言葉にはアンテナを張り、関心をもって本誌や「男女共同参画プランだより」等を読み、新聞等に関連記事が載ればいねいに読むなど、情報収集には怠りなく、より一層理解を深めるように努めています。

また家庭にあっては、家の中の掃除や買い物などへの送迎運転手、食事の後片付け（料理は不得手）をする等、家庭内での男女共同参画を進めるべく、率先して実践しています。



何をやっても中途半端だった私が、子どもを持ち、保育所の母の会(当時)の執行部に参加したのをきっかけに、いろんな考えを持った人たちに出会い、そうした中で、何かがはじけたように少しずつ変わりはじめたような気がします。

そして、下の子どもが小学校に上がったときに、PTA活動に参加し、いろんなことを学ばせてもらいました。例えば、必要に迫られて、触ったことのないワープロ相手に悪戦苦闘し、2晩3晩と徹夜してなんとか修得したこと。その時の私には、つらかったことよりも、ひとつのことにチャレンジしそれが達成されたとき、『やれば出来るんだ!』という嬉しさ、達成感がありました。

これからも『やれば出来るんだ!』を味わうために、いろんなことにチャレンジできたらと思います。



山之上孝子さん

40代 2児の母 自営業 富山市在住  
中学校PTAで執行部を務める  
富山市交通安全アドバイザー  
富山県男女共同参画推進員



みんなで始めてみませんか?  
21世紀、私もあなたもエンパワーメント!



# 教えて！もっと知りたい 『富山市男女共同参画プラン』



富山市では、豊かな男女共生社会の実現に向けて、平成3年度に『富山市女性行動計画』を策定し、女性に関する施策・男女平等の推進に取り組んできました。

今年度でこの行動計画が終了するため、『男女共同参画社会基本法』（平成11年6月施行）に基づき、新しい計画『富山市男女共同参画プラン』を策定中です。



## どうしてプランが必要なの？



市では、まずプラン策定の基礎資料とするため、公募を含む市民と市職員で構成した『男女共同参画研究会』が主体になって、昨年1月に『男女共同参画に関する意識調査』を実施しました。

この調査結果から、現在でも『男性は仕事中心、女性は家庭中心』と思う方が過半数あること、『社会の仕組みは男性が優遇されるようになっている』と思う方が8割程あるなど、性別による役割分担意識が依然強く、社会システムに対する不平等感を持つ方が多いということが分かりました。

21世紀にめざす社会像は、

男女が互いにその人権を尊重しつつ、

責任をともに分かち合い、

性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる

そんな「男女共同参画社会」です。

この実現のためには、富山市の様々な施策を男女共同参画の視点から横断的にとらえて、総合的に推進しなければなりません。それが『富山市男女共同参画プラン』なのです。



## プランはどのようにして作るのですか？



昨年、市長を本部長とした『富山市男女共同参画社会推進本部』を設置しました。この中で、各関係部局職員による幹事会・研究会での検討・協議を経て、各関係部局長が本部長となる本部会議において策定します。「男女共同参画社会」の実現は重要な課題ですので、全庁挙げての体制が必要なのです。



## 私たち市民の声は反映されるのでしょうか？



昨年9月には、市広報でプランへの意見を募集し、男女共同参画社会の実現にはどんなことが必要なのかなど、数多くの意見が市民の方々から寄せられました。

また、市民の方にもプランへの提言をお願いするため『富山市男女共同参画推進懇話会』を設置し、ご意見をいただいています。委員には公募の市民、有識者、関係団体の長、関係機関の長など15名の方が任命されています。

2月にはプランの原案について、市民の方々の意見を伺うための市民集会を開きました。

それぞれの機会に得られた多くの意見を取り入れながら、プランの策定にあたっています。



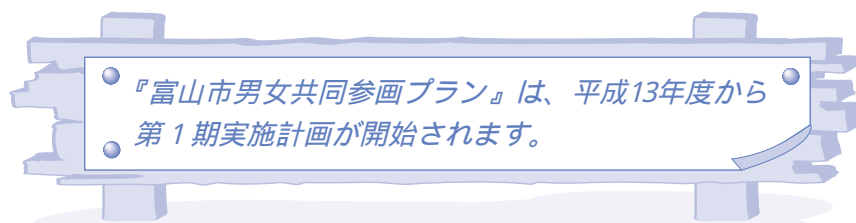
## 男女共同参画を推進するために、私たちができることはあるのでしょうか？



会社や学校、地域、家庭などいろいろなところで男女共同参画社会づくりに向けての意識づくりや、積極的な活動が必要です。

女性交流センターでは、男女共同参画講座を開催しておりますので、講座を受講してエンパワーメントすることも男女共同参画の推進ということになりますね。

身近なところから固定的な観念に縛られていないかチェックしてみることも、大切なのではないのでしょうか。



# 日本女性会議 2000津

そうや！女も男もおんなじ人間やんか。

- 男女共同参画社会の実現のために -

1995 .9月 津市「男女共同参画都市宣言」  
2000 .10月 三重県「男女共同参画推進条例」を  
制定。(2001年1月1日施行)

「日本女性会議」は、男性を巻き込みはじめた！

- ・今回初めて男性参加者が全体の1割を超える
- ・分科会も男性をテーマに...
- ・一昨年8月にイベント「男性会議99」を開催

市民と行政のパートナーシップ  
実行委員約180名全員が  
公募による市民ボランティア

## 主催 日本女性会議2000津実行委員会 津市

第1日目 11月10日(金)

### 基調講演

- A 「女性2000年会議と国内外の動き」  
内閣総理大臣官房男女共同参画室長(当時)  
大西 珠枝氏  
「午後の居場所で一女と男の風景」  
作家 落合 恵子氏
- B 「21世紀 男女共同参画社会基本法が  
もたらす、新しい社会の展望」  
日本経済新聞編集委員兼論説委員  
鹿嶋 敬 氏  
東京都立大学助教授 江原由美子氏

### 交流会

第2日目 11月11日(土)

### 分科会

#### 1. 政策決定への女性参画

2. 労働
3. 農山漁村
4. 子育て
5. 高齢者・障害者福祉
6. メンタルケア
7. 男性
8. 平和と共存
9. 人権
10. 次世代

### ワークショップ

起業  
ドメスティック・バイオレンス  
まちづくり  
家庭のパートナーシップ  
環境

### 全体会

「今、新しい世紀へあゆみ出そう」

興味のある方は、公式ホームページへ  
[http://www.ztv.ne.jp/hisaiya/2000z/  
index.htm](http://www.ztv.ne.jp/hisaiya/2000z/index.htm)

日本女性会議は、男女平等と男女共同参画社会の実現を目指す国内最大の会議です。1984年から毎年各都市で開催されており、今回で第17回目となります。全国から約3,800名が参加し、本誌の吉田編集委員も参加しました。数多くのプログラムの中から、第1分科会を中心に報告します。

### 分科会報告

「政策決定への女性参画」 新しい社会を創るために～みんなで世の中変えてこに～  
コーディネーター 大西 珠枝氏(内閣総理大臣官房男女共同参画室長・当時)  
パネリスト 後藤 尚子氏(99 愛知県日進市議会議員に初当選、  
「女性を議会に！ネットワーク  
あいち・ぎふ・みえ」副代表)  
原田 正司氏(前三重県副知事、自治省行政局公務員課長・当時)  
三井マリ子氏(女性連帯基金副代表、女性政策研究家)

「政策決定への女性参画」と言っても様々ですが、今回話し合われたのは、**議会への参画と行政の政策決定の場への参画**(女性公務員の採用や登用など)についてでした。大西氏がおっしゃったように「政策決定への女性参画」は『男女共同参画社会基本法』の基本理念のひとつですが、日本が遅れている分野であるため、今後「**積極的改善措置**」(注1)の具体化を含めての取組みが課題となります。

議会への参画について後藤氏は「女性議員を増やそうというネットワーク活動の中で、地域の仲間と選挙の手法を創り出し、学びあって当選できました。こうした市民のパワーで市政が変わりつつあります。」と自らの経験を述べられ、三井氏は「女性の政治参画先進国ノルウェーから学ぶことが多いのですが、選挙制度については、長期的に見て比例代表制へのシフトが必要だと思います。また、女性の政治参画への障害を取り除く為に(積極的改善措置として)クオータ制(注2)の導入を検討すべきです。」と力説されました。

行政の政策決定の場への参画について原田氏は「女性公務員の採用や登用への取組みには、継続した強い意志と有効なシステムが必要です。しかし、能力のない人を採用する訳にはいきません。数値目標の達成は、女性の能力開発と同時に進めて行く必要があります。」と述べられました。この言葉を聞いて、現在、数値目標を達成するだけの能力のある女性が本当にいないのか疑問に思いました。もしそうなら、能力開発の機会を男性と等しく設ける必要があると思う一方で、「女性自らが積極的にエンパワーメントしなければ！」と痛感しました。

「施策の推進について、国が示すのは理念。具体化するの国民。国民が動かないと何も変わりません。行政、議会、国民の3者がよきパートナーとして、時には協力し、時には批判しながら進めていくことが必要です。」と締めくくられた大西氏の言葉は、「市民1人ひとりが主体性を持って世の中を動かす原動力となろう」という私たち市民へのエールのように響きました。

### 勇気を出して質問！

女性のエンパワーメントについて、勇気を出して三井氏に質問票を書きました。「ひとりでもいいから声を上げ、仲間をふやすことが大切です。例えばインターネットを活用し、ネットワークを構築しましょう！」という元気な答えが返って来ました。

注1) 積極的改善措置 男女間の参画の格差を改善する為に、必要な範囲で男女のいずれか一方に対し、必要な機会を与えること。『男女共同参画社会基本法』にも盛り込まれている。ポジティブ・アクション、アファーマティブ・アクション。

注2) クオータ制 選挙の候補者や国の審議会等、ある分野に参画すべき女性(または男性)の数や比率を定め、これを強制する割当て制度。

# 東南アジアの風にのせて

## 第8回富山市女性海外派遣

- 未来にはばたく女性の翼 -

H12.8 21～8 31 シンガポール・マレーシア・タイ



平成4年に「富山市婦人海外派遣」として始まった女性海外派遣事業。（平成6年に名称変更）今年度は第8回を迎え、14名の団員がシンガポール・マレーシア・タイを訪問しました。

この事業は、ただ単に「外国へ行く」だけでなく、事前研修～本研修（海外派遣）～事後活動という一環の流れの中で、自己啓発、女性たちのネットワークづくり、そして派遣で習得した経験を生かして地域づくりに参画するなど、明日の富山市を担う女性を育てるべく実施されています。

### 事前研修

団員は40代後半から50代前半の女性14名。専業主婦、会社員、公務員などいろいろな職種の方が、それぞれの想いと決意を胸に一同に会しました。

今回は福祉・教育というテーマで2班に分かれて本研修に臨むことになりました。そこで、事前に「富山市の福祉と教育の現場を知ろう！」ということで、自主的に「わかき保育園」の見学、「チューリップ苑」の視察と介護ボランティアの体験、そして「富山県立聾学校」を見学と、精力的に研修を重ねます。

また、事前研修として訪問国の留学生から現地事情の説明を受けたり、かつての派遣団員の方々の体験談を聞いたりなどとして、本研修に臨む心構えも徐々に固まってきます。



### 本研修（海外派遣）

平成12年8月21日（月）、うだるような猛暑が続く富山から、熱帯の東南アジアへ向かって出発。

シンガポールでは、5月に来富した星日文化協会への表敬訪問、中学校、女性団体、老人ホームの視察。マレーシアでは、代表産業であるパームオイルやゴムの研究所の視察。タイでは、孤児院・聴覚障害学校の視察と、やや過密とも思えるスケジュール。「私たちは富山だけでなく、日本女性の代表である！」という意気込みで「日本との教育の違いは？」「福祉政策は？高齢化の問題は？」と研修を積み重ねていきます。

交歓会では、日本文化を伝えるべく「お手玉」「折り紙」のパフォーマンス、「おわら」の披露などで大いに盛り上がりを見せました。

マレーシアでは、2人ペアでホームステイへ。現地の普通の生活を経験し、いろいろな思い出を胸に過ごした3日間。それぞれの家族との心温まる交流があり、お別れ会では団員・家族入り交じって「おわら」を踊るなど、夜も更けてからもなごりはつきませんでした。



視察先の老人ホーム



### 草の根交流を進めて...

女性海外派遣に参加した団員たちが、帰国後に加入するのがWomen's Wing Toyama（ウィメンズ・ウィング・トヤマ）です。

この団体は、第1回派遣団の団員の方々が「帰国後も国際交流を進めよう」と結成しました。海外派遣で得た経験をいかし、市内在住の外国人の方々と社会見学・バーベキューの交流会など、草の根活動での国際交流に熱心に取り組み、平成11年には「とやま国際草の根交流賞」を受賞しました。

また、昨年5月に星日文化協会の訪日親善団が来富した際には、市と親善団との交流会にも参加。お茶席を設けて歓迎するなど、積極的に協力しています。

### 事後活動

8月31日（木）、全員無事富山に到着！

本研修から戻ってホッとしたのも束の間。すぐに事後活動として、派遣団の研修成果を市民の皆さんに報告する「海外派遣報告展」が始まります。

視察先で得た情報をまとめ、写真も交えてビジュアルにわかりやすく報告します。班別テーマの研修報告も同時に発表しました。

報告展は、10月25日（水）～11月2日（木）の日程で、市庁舎1階・多目的コーナーで開催され、期間中約530名の来場者がありました。

そして最後に、研修の成果を1冊の報告書にまとめて、1年間にわたる事業は終わりを迎えます。

次回女性海外派遣は、平成14年度の予定です。  
次に翼をつけてはばたくのは、ひょっとして、今このページを読んでいるあなたなのかもしれません。



「富山の薬は...」  
池田屋安兵衛商店にて

# ~ Information ~

## 新・編集委員を募集!!

「あいのかぜ」第12号からの、新・編集委員を募集します。

応募資格は20歳以上の富山市民の方で、13年度、14年度の2年間活動できる方です。

募集については「広報とやま」3月5日号にも掲載しています。

募集要項・応募用紙は各地区センター、女性交流センター、図書館、青少年女性課の窓口にあります。必要事項を記入のうえ、直接または郵送、Faxで青少年女性課へ提出してください。詳細は青少年女性課へ。

メールでの問い合わせもどうぞ。

## ありがとうございました

今号をもって、現在の編集委員の皆さんは任期を終えられます。長い間、本当にありがとうございました。これからも「あいのかぜ」を見守ってください。

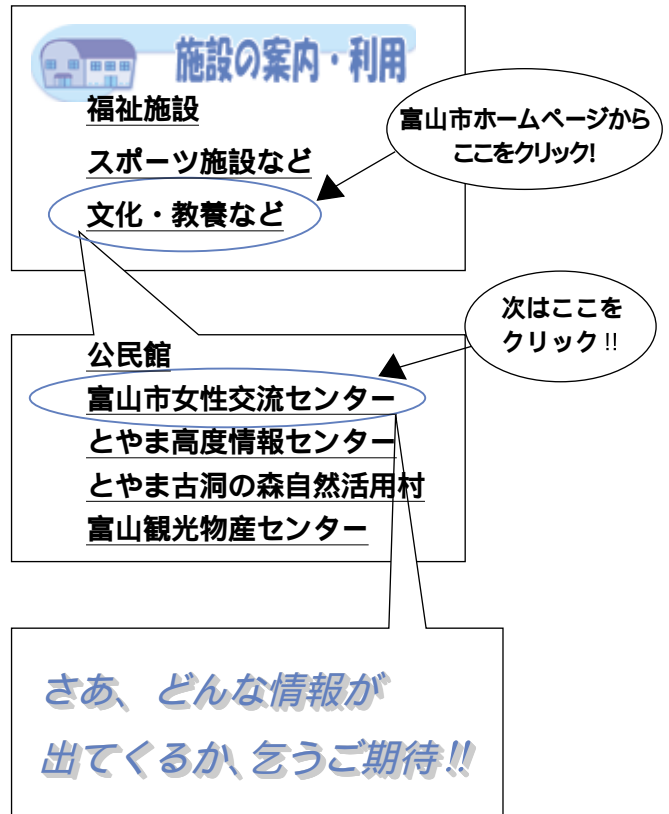
## 編集後記

「エンパワーメント」。今号の編集終了後も、自分を励ますように何度となくこの言葉を呟いています。女性学の見地から語られることが多いようですが、年齢や性別を問わずすべての人が目指すべき普遍性を秘めていると思います。私たちのごく身近にも、はるか遠い異国の地にも、それぞれの実現を目指して日々の努力を惜しまない方はたくさんいらっしゃいます。まずは自分自身ができることから始める。その“はじめの一歩”が肝心ですね。

庄野 千晶

平成14年度に  
女性交流センターの  
ホームページを開設!!

<http://www.city.toyama.toyama.jp> にアクセス!



開設日時は、「広報とやま」などでお知らせします。

“あいのかぜ”は、豊かな男女共生社会の実現に向けて、市民一人ひとりが女性問題に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3名からなる編集委員によって企画・編集された女性情報交流誌です。

Cover 『Glass Candle』 山口真澄さんの作品  
97富山ガラス造形研究所卒業、工房「Shin - Glass Works -」を開設。  
「火を灯すと、ガラスを透してゆらめく炎、きらめく光に出会えます。」

編集・発行 富山市役所市民部青少年女性課  
〒930 8510 富山市新桜町7 38 Tel. 076 443 2051  
Fax. 076 443 2176

“あいのかぜ”へのご意見・ご感想をお待ちしております。  
[宛先] 〒930 8510 富山市青少年女性課(住所記載不要)  
[アドレス] seisyounen-01@city.toyama.toyama.jp